

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見	
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制



バリューチェーン

取り組みの柱

日産は、ビジネスパートナーとの信頼を基本に、お互いの持続的な成長を目指しています。そのために、常に対等な立場でサプライヤーや販売会社の意見に耳を傾け、切磋琢磨し合いながらベストプラクティスを導き出す協力関係の維持・強化に努めています。日産が事業展開する地域の拡大とともにバリューチェーンもグローバルに広がる中、一貫性のあるCSR活動を推進するために、日産のCSRに対する考え方や方針をビジネスパートナーと共有し、CSRマネジメントの向上を目指しています(写真はサプライヤーとの会議の様子)。

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

バリューチェーン

CSRスコアカード

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは、「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	重点活動(価値)	進捗確認指標(適用範囲)	2011年度	2012年度	2013年度	長期ビジョン
サプライチェーンのあらゆる段階において、倫理的で、環境に配慮した行動がなされるよう推進していきます	ルノー・日産が尊重する価値観、法令・規範の順守をサプライヤーに展開し共有	サプライヤーと共有する価値観・規範の展開プロセスおよび浸透度合い (適用範囲) ルノー・ニッサンバーチャリングオーガニゼーション(RNPO)*の世界中の全一次取引サプライヤーとそのサプライチェーン *ルノーと日産の全購買額(100%)を扱う	<ul style="list-style-type: none"> 発注先選定時に、サプライヤーとの「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」(以下、「CSRガイドライン」)の確認を開始 サプライヤー法令違反時の対応ルールを整理し、発生した事例への対応を実施 2011年度は、東日本大震災、タイ洪水からの復旧がサプライヤーと連携した重要な取り組みとなった。この取り組みは、被災サプライヤーの早期復旧といった社会貢献に結びつくため、CSR活動として評価した 主な取り組み <ol style="list-style-type: none"> 生産復旧に関する早期情報共有化 輪番停電・夏季週末稼働への対応 サプライチェーンでのBCP(事業継続計画)策定(日本、タイ) 	<ul style="list-style-type: none"> 発注先選定時のサプライヤーとの「CSRガイドライン」の確認を継続 サプライヤー法令違反時の対応ルールである見積依頼書(RFO)の発行停止に関する運用方法を明確化し、この運用を開始 サプライチェーンにおけるCSRの浸透を狙いとした、紛争鉱物予備調査を実施 災害対策活動の継続 <ol style="list-style-type: none"> サプライチェーン見える化データベース構築(日本) 災害リスク地域を特定し、リスク地域内の供給体制を確認(主要海外拠点) 	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤーとの「CSRガイドライン」確認時、欧州REACH規制の活動の確認を追加(2014年度から開始) サプライヤー法令違反に対し厳格に対応措置を実施 日本・北米・欧州・中国の拠点において、CSRに基づく紛争鉱物調査を実施 震災ハイリスク地域のサプライヤーについて、災害対策状況の現場診断実施(日本) 	サプライチェーンでの法令順守に基づく適正取引の周知・徹底を継続し推進していく
グリーン調達活動を通じた、製品の環境負荷低減を推進	グリーン調達基準に基づくサプライヤーとの環境負荷物質管理の進捗度	(適用範囲) 世界中の全一次サプライヤーおよびその取引先	<ul style="list-style-type: none"> 「ニッサン・グリーンプログラム 2016」に対応した「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」(2011年度改定)をサプライヤーに展開 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷物質管理の取り組みを強化し、「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」(2012年度改定)により、サプライヤーへ活動を依頼 サプライヤー環境データ調査(CO₂排出量等)を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州REACH規則など化学物質規制の対応計画をサプライヤーへ配布し、活動の周知徹底を依頼 規制される禁止・管理物質について、サプライヤーとともに成分データ収集の活動を推進 サプライヤー環境データ調査を継続し実施。CO₂削減目標の設定状況を調査し、日産のサプライチェーンCO₂削減目標設定の検討を開始 	サプライチェーン全体での環境負荷低減のマネジメントを推進していく
販売会社におけるCSR活動の推進	(適用範囲) 販売会社(日本)		2011年度はコンプライアンス自己点検プログラムを活用定着に取り組んだ結果、2010年度以上にコンプライアンスへの意識が向上した。また6月の代表者会議では個人情報情報の漏えい事例の注意喚起を行い、その後、各社に改善策を展開し管理レベルが向上	2012年度も、引き続きコンプライアンス自己点検プログラムを実施し、コンプライアンスに対する意識向上が図られた。代表者会議で、金銭不祥事・情報セキュリティ・ハラスメントに関し、案件の発生事例と、改善方策や教育資料を展開、各社での実践により、未然防止を図っている	2013年度も、引き続きコンプライアンス自己点検プログラムを実施し、コンプライアンスに対する意識向上が図られた。代表者会議で、案件の発生事例と、改善方策を展開。各社での実践により、未然防止を図っている。また新たな取り組みとして、案件発生時の社内での速やかな情報共有・対応を強化するための体制整備を行った	販売会社の自主的な取り組み定着に向けての支援

関連指標

「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」 配布サプライヤー数	7,700 社
「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」 配布サプライヤー数	3,000 社 (部品・資材・サービス部品)

環境データ調査対象サプライヤー	グローバル全購買額の 70%
コンプライアンス違反に対する改善勧告実施件数(2013年度)	10 件
「日産グリーンショップ」*認定件数	158 社/約 2,700 店



▶▶ GRI G4 Indicators
▶▶ G4-EN27/G4-EN33/
G4-LA15/G4-HR11/
G4-SO7/G4-SO10



▶▶ page_38

*「日産グリーンショップ」の詳細を掲載しています

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

バリューチェーンへの取り組み

ルノー・日産はアライアンスによる効率的な購買活動を推進するため、両グループの全調達額を扱う共同購買会社を設立し、すべてのサプライヤーと双方に有益となるビジネスパートナーシップの構築を進めています。

取引にあたっては、大切にすべき価値として「信頼（公平に、プロ意識を持って）」「相手への敬意（約束、義務、責任を果たし）」「透明性（オープンに、率直に、明快に）」という3つを定めています。

また、サプライヤーの選定にあたり、グローバルに統一した明確なプロセスを導入しています。国籍、企業規模、取引実績の有無にかかわらず、広く参入機会を提供し、選定に際しては関係部門が一堂に会してサプライヤーからの提案を横断的に検討します。また、選定結果は参加したすべてのサプライヤーに必ず説明するなど、公平・公正で透明性のある運用を徹底しています。

取引をしている全世界のサプライヤーについては、工場別の所在地や購入額等の基本的な項目をデータベースとして管理・把握しています。

サプライヤーとの取引にあたっては、大切にしている価値やプロセスを「The Renault-Nissan Purchasing Way」*という小冊子にまとめ、2006年からルノー・日産のサプライヤーと共有しています。

2013年度の実績

- 法令・規範の順守とCSRの推進に向けたサプライヤーとの活動
 - ・発注段階でのサプライヤーとの「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」*の確認に関し、欧州REACH規制に対する活動の確認を追加（2014年度から開始）
 - ・サプライヤーの法令違反に対し、厳格に再発防止の対策措置を実施

- ・日本・北米・欧州・中国の拠点において、CSRの視点（人権尊重・環境保護）に基づく紛争鉱物調査を実施
- ・震災ハイリスク地域のサプライヤーについて、災害対策状況の現場診断を実施（日本）

■ 環境負荷物質低減に向けたサプライヤーとの活動

- ・欧州REACH規則などの化学物質規制の対応計画をサプライヤーへ配布し、活動の周知徹底を依頼
- ・禁止・管理物質について、サプライヤーとともに成分データ収集の活動を推進
- ・サプライヤー環境データ調査を継続し実施。CO₂削減目標の設定状況を調査し、日産のサプライチェーンCO₂削減目標設定の検討を開始

- 販売会社の活動については、2013年度も引き続きコンプライアンス自己点検プログラムを実施し、コンプライアンスに対する意識を向上。代表者会議で案件の発生事例と改善方策を展開し、各社で実践。案件発生時の社内での速やかな情報共有・対応を強化するための体制を整備

今後の取り組み

- 「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」に基づく、サプライチェーンでの法令順守と適正取引の周知・徹底を継続し推進していく
 - ・紛争鉱物調査の実施およびサステナビリティレポート等での情報開示
- サプライヤーと環境負荷低減のマネジメントを継続し推進していく
 - ・CO₂排出量削減などのサプライチェーンでの環境活動を推進するため、サプライヤー環境データ調査の継続
- 販売会社を対象にした情報セキュリティ教育の継続

▶ website

*「The Renault-Nissan Purchasing Way」は、ウェブサイトからダウンロードできます

▶ page_72

*「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の骨子を掲載しています

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

サプライヤーとの取り組み

持続可能なサプライチェーンの構築に向けて、日産はグローバルに広がるサプライチェーンのあらゆる段階において、倫理・社会・環境に配慮したビジネスの遂行を目指しています。ルノーと共同でまとめた「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」と、サプライヤーへの環境活動の具体的な依頼事項をまとめた「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」に基づき、サプライヤーと協働しながらCSRの取り組みを浸透させています。

「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」による浸透

世界中のサプライヤーとともにCSRを実践していくため、日産は「日本自動車工業会サプライヤーCSRガイドライン」をもとに、ルノーと共同でサプライヤー向けCSRガイドラインの検討を行い、2010年5月に「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」*と自己診断チェックリストを作成しました。

本ガイドラインはサプライヤー各社が企業活動をCSRの視点で見直し、CSRへの取り組みを実践することを目的に、以下の5項目を説明しています。

- 「安全・品質」: 顧客のニーズに応える製品・サービスの提供等
- 「人権・労働」: 児童労働・強制労働の禁止、労働時間・賃金の法令順守等
- 「環境」: 環境マネジメントの構築・運用、温室効果ガス排出削減等
- 「コンプライアンス」: 法令順守、汚職防止等
- 「情報開示」: ステークホルダーへのオープンで公正なコミュニケーション等

ルノーと日産は、本ガイドラインを世界中の全サプライヤーに配布し、さらに、サプライチェーンの隅々まで浸透させるため各サプライヤーから二次取引先へ配布するよう依頼しました。

また、発注先選定に際して、候補となるサプライヤーに、本ガイドラインの内容についての合意を確認しています。

本ガイドラインの第3章「サプライヤーの皆様へ」では、サプライヤーへ法令規範の順守を依頼し、万が一コンプライアンス違反が発生した場合の対応（即時報告、調査結果、改善計画の報告）を明示し、実際に起こってしまった違反事案に対しては、社内ルールに基づき、厳正な対処を実施し、再発防止の徹底に努めています。

ガイドラインの発行と合わせて、2010年、基本契約に「法令等の遵守」を織り込み、以降の新規取引先との契約に反映させています。

サプライヤーにおけるCSR順守の確認

日産ではサプライヤーにおけるCSR順守の状況を以下の項目で確認しています。

- 発注先選定時に、サプライヤーと「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の内容についての確認
- 発注先選定時に、サプライヤーの環境負荷マネジメント体制と日産との環境活動を確認
- 新規サプライヤーに対し、工場工程監査と合わせて環境マネジメントを監査
- 各購買担当者がサプライヤーとの日常業務の中でサプライヤーのCSR取り組み状況を確認するよう、購買部門内でCSR教育を実施

また、万が一サプライヤーからの部品材料供給に支障があった場合、その影響は、日産の生産のみにとどまらず、サプライチェーン全体を含めた社会的な影響にまで及ぶ可能性があるため、以下の項目（次ページ）もCSR活動の評価と位置づけ、確認しています。

▶▶ website

*「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」は、ウェブサイトからダウンロードできます

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

- 災害時の供給対応（災害時の復旧対策が行われているかを新車の発注先選定時や通常業務において確認）
- 通常時のサプライヤーの供給能力（月次で調査を実施）
- サプライヤーの財務リスク（財務部と連携し毎年実施）
- サプライヤーのQCDDM（Quality、Cost、Delivery、Development、Management）について、実績評価（年1回）や、関係する各部での確認を実施

以上の項目からサプライヤーの状況を把握し、リスクが高い場合は、サプライヤーとともに速やかに対策を立案し改善を図っています。

サプライヤーとの環境活動

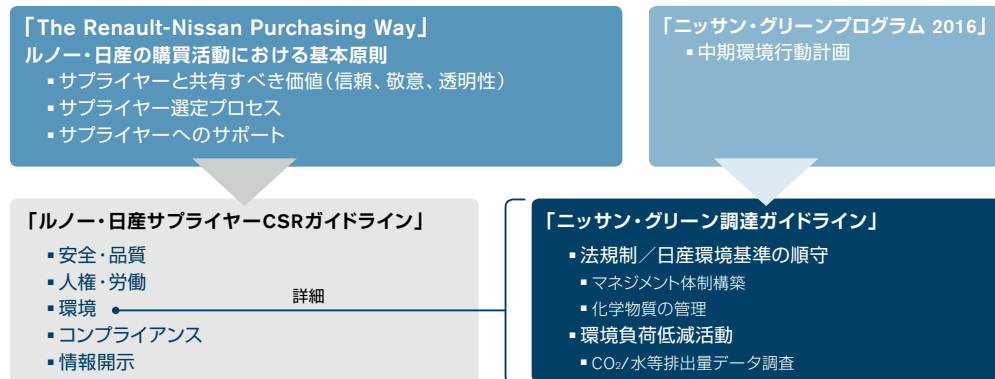
日産は、すべてのサプライヤーと日産の環境理念・環境行動計画を共有し、サプライチェーン全体の環境改善をともに推進するため、サプライヤーにおける環境活動を、「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」¹⁾にまとめ、2001年に発行し、活動への協力をお願いしました。

「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」は、「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の「環境」項目に関する詳細な説明と位置づけられます。

▶ website

¹⁾「ニッサン・グリーン調達ガイドライン(改定版)」はウェブサイトからダウンロードできます

グリーン調達ガイドラインの位置づけ



「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」は、以下の内容にて改定を行ってきました。

- 2008年、運用範囲を日本国内から全世界に拡大
- 2011年、中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム 2016 (NGP2016)」²⁾の発行に伴い、下記の項目を追加
 - ・サプライチェーンにおけるCO₂や水の排出量等の環境データ調査の開始
 - ・各国の環境法規に対応し、環境負荷物質の管理の適用地域と対象物質の拡大

これに基づき、2012年度からサプライヤーの環境データ調査を開始しました。2013年度は、サプライヤーのCO₂削減目標の設定状況を調査し、CO₂削減目標設定の検討を進めています。

- 2012年、世界の規制動向（欧州連合 [EU] のREACH規制 [化学物質の登録・評価・認可・制限に関する規制] やRRR指令 [3Rに関する自動車車両型式認定制度についての指令] など）を踏まえ、下記の項目を追加
 - ・使用禁止物質の追加と成分データの管理地域を全世界へ拡大
 - ・新車発注時のサプライヤーの環境負荷物質管理体制と活動を確認するプロセス開始

これに基づき、サプライヤーに対して2014年度の欧州REACH規制に対する対応依頼を行い、活動を進めています。

▶ page_18

²⁾「NGP2016」の詳細を掲載しています

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

サプライヤーと共同で取り組む「モノづくり活動」の推進

日産では、より競争力のある商品を常に生み出すため、2008年からサプライヤーと日産の連携による「モノづくり活動」を進めてきました。この活動を発展させるため、2009年からはサプライヤーとの信頼と協力を重視した共同改善活動「Thanks活動」を推進しています。サプライヤーとともに厳しい市場でコストリーダーとなることを目指し、部品当たりの生産量増加、現地化の徹底、物流の改善などを実施しながら、品質向上、コスト低減、製造の合理化などに取り組んでいます。

2013年度は、中期経営計画「日産パワー88」*をさらに進めるため、従来の活動に加え、仕様、原材料、為替、物流などすべてのコスト変動を最適化する「TdC (Total delivered Cost) チャレンジ」を導入しました。日産の各機能部署とサプライヤーが一体となって「TdCチャレンジ」および品質・供給両面での改善活動を強力に推進しています。

サプライヤーとのコミュニケーション

日産は、サプライヤーへのタイムリーで的確な情報提供が重要であると考え、サプライヤーズミーティングを日本および各海外拠点で開催し、中期や年度ごとの購買方針などについて周知を図っています。日本の例では、月次で連絡会を開催し、生産計画やさまざまな業務、依頼事項について直接サプライヤーに伝えるとともに、サプライヤーからの質問事項や要望に答える場としても活用しています。

事業発展に貢献したサプライヤーをグローバルに表彰

日産は、毎年世界の各拠点で事業の発展に貢献したサプライヤーを表彰するとともに、グローバルレベルで業績向上に寄与したサプライヤーに対して、「日産グローバルサプライヤーアワード」として「グローバル品質賞」と「グローバルイノベーション賞」を贈呈しています。この表彰制度は、品質、コスト低減、技術開発といった経済活動、環境配慮、社会性の3つの

側面でバランスのとれた経営を行うという日産の考え方が、グローバルレベルでサプライチェーン全体に浸透することを目的としています。

グローバル品質賞は、購買や品質などの関連部門が、グローバルに統一された品質評価基準に基づいて選考します。

グローバルイノベーション賞は、商品技術とプロセスマネジメントの2分野において、生産・開発・品質など関連部門の推薦を受けたサプライヤーを選考します。

2013年度は、3社がグローバル品質賞を受賞し、グローバルイノベーション賞は商品技術分野で6社が受賞しました。

紛争鉱物への方針と取り組み

2012年8月、コンゴ共和国および周辺国の紛争地域で採掘された4鉱物の中で、武装勢力の資金源となっている可能性のある鉱物の使用有無について報告を課す法案の細則が米国で制定されました。同法の趣旨に賛同する日産は、CSRの観点からサプライチェーンにおける紛争鉱物の使用を把握し、紛争鉱物不使用に向けた取り組みを行う方針を決定し、ウェブサイト*などで発表。2013年度から調査を開始しています。

グローバルに広がるサプライチェーンにおける使用状況をすべて把握する必要があるため、調査は大規模なものとなっており、日本自動車工業会および米国証券取引委員会 (SEC) 上場の会員会社、さらに日本部品工業会および電子情報技術産業協会などと連携し、調査方法の検討や調査結果の解析を進めています。



▶ website

*「日産パワー88」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶ website

*紛争鉱物への取り組みに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

販売会社の取り組み

日産では、販売会社とコンプライアンスの意識を共有し、より強固な内部統制を構築できるように、さまざまな取り組みを推進しています。販売会社とのコミュニケーションを強化しながら、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

販売会社と共同で取り組むCSRマネジメント

日産では、販売会社とともに一貫性のあるCSRマネジメントを推進するため、日本国内の日産販売会社向けにコンプライアンス強化を目的とした活動を継続的に実施しています。具体的にはコンプライアンスに関する管理レベルの把握と改善を目的とした「自己点検プログラム」を年2回各販売会社で実施。日産が提供する「自己診断チェックシート」をもとに、自社におけるコンプライアンスの現状や課題について把握し、PDCAサイクルを回しながら自発的改善活動につなげています。チェックシートは監査での指摘事項等を反映させながら更新し、修正・追加された項目についても周知・徹底を図りながら改善活動を実施しています。プログラムの実施状況は販売会社および日産の関係部署でも共有、取締役会への報告も実施し改善状況や有効性を確認するなど、販売会社とコンプライアンスへの意識を共有しながら、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

重大なコンプライアンス案件が発生した際には法務、広報、渉外など日産の関係各部署が連携しながら販売会社とともに適切に対応しています。

販売会社におけるコンプライアンス教育

日産では販売会社におけるコンプライアンス教育として下記を実施しています。

「行動規範」の定期的改定と周知・徹底

日産では、3年に1回、法改正への対応や、企業倫理に対する社会からの要請に応えるため、「日産行動規範(日本版)」の改定を実施しています。販売会社においても定期的に「行動規範」の改定を行うとともに、改定に合わせて従業員への教育を実施し、周知・徹底を図っています。

2014年度も、「日産行動規範」改定に合わせて、販売会社でも「行動規範」の改定・教育を実施しています。

情報セキュリティ強化およびハラスメント未然防止

ウイルス感染やメール誤送信防止、PC紛失・盗難による情報流出防止など、日常業務の中で、重大インシデントに結びつくようなリスクを回避するために、日産e-ラーニングで実施した内容に準じた教材を各販売会社に提供し、情報セキュリティ教育を実施しています。

SNSやブログに関しては、不適切な書き込み事例を販売会社と共有し、販売会社が社内に周知することで、不適切な書き込みの未然防止を図っています。不適切な書き込みにより、当該販売会社のみならず、日産グループ全体にどのような不利益が発生する可能性があるのかも伝え、啓発と再発防止を図っています。

ハラスメントに関しても、社会的関心の高まりや販売会社での発生事例を勘案し、パワー・ハラスメントを中心とした教材を提供。「パワー・ハラスメントにあたる行動・言動事例」「発生した際の影響」「販売会社での発生事例」「発生時の対応」等の内容を含み、これを活用し2012年度から2013年度にかけ、教育を実施しました。2014年度も、2013年度以降入社の新入社員を中心に、引き続き教育を実施します。